

トラックドライバーのための 安全運転教室

今年は
早めの用意が必要ですね！

冬道走行への準備

つい先日、博多駅前の道路が陥没するという大事故が発生しました。幸い早朝だったので死傷者はありませんでしたが、昼間であれば大惨事になっていたかもしれません。地震などの災害発生時は別として、通常時に道路が陥没するかもしれない想定して通行している人や車はいないでしょう。道路は不動のものであり、突然陥没したり崩壊することはないという前提がなければ道路交通は成り立たないからです。その一方で、道路は傷みやすいということも忘れてはならないでしょう。特に過積載は道路を傷める大きな要因となります。「過積載は絶対NO！」を徹底しましょう。

●凍結路面に注意

Aさん「道路といえば、これから時期は路面の凍結に注意が必要だね」

Bさん「雪が降らなくたって、路面は凍結するからね」

Aさん「特に雨が降った後の深夜から明け方は要注意だよ。気温が下がれば、路面に残った雨水が凍りついてしまう恐れがあるからね」

Bさん「それと橋の上やトンネルの出入口、切通しなども凍結しやすいといわれているから注意しないとね」

Aさん「ただ、凍結しやすいということが頭では分かっていても、積雪路面と違って凍結路面は見えにくいからね。どうしても発見が遅れやすくなる」

Bさん「だから凍結しやすい場所では、まずスピードを落とす。それから路面の状態に十分目を向け、ハンドルやブレーキ操作を慎重に行うという事が大切だね。」

Aさん「特にブレーキ操作には細心の注意が必要だよ。強く踏むと、スリップして車のコントロールが効かなくなるからね。ブレーキを踏む時はゆっくりと静かに踏む、これを徹底しないと」

Bさん「ソフトブレーキってことだね」



●タイヤチェーンのチェック

Aさん「それから、この時期はタイヤチェーンが装備されているか、タイヤチェーンに損傷がないかなどをチェックする必要がある」

Bさん「チェーンが摩耗していたり傷があったら、走行中にチェーン切れを起こす恐れがあるからね」

Aさん「もし、走行中にチェーンが切れたら、自分の車の走行に支障が出るだけでなく、路上に放置されたチェーンが他車の走行の障害になってしまう」

Bさん「ともかくチェーンは冬場の必需品だからね。寒冷地や山間部を走るトラックはもちろんだけど、そうでない場合でも、最近の気象状況を考えると、携行しておいたほうが安心だしね」

Aさん「それと、冬用タイヤを着けていてもチェーンは携行していた方がいい。場所によってはチェーンを着けないと走れないケースもあるし、「チェーン装着車以外は通行止め」という規則が出されることもある」

Bさん「ただ、チェーンを携行していても装着するのが遅れると、携行している意味がなくなる。早めに脱着場などの安全な場所で装着することが大切だね」

Aさん「いざという時にスムーズに装着できるよう、あらかじめ装着の練習をしておくといいね」

Bさん「積雪路から普通の路面に変わってチェーンが必要なくなったら、早めに取り外すこと重要な事だよ」

Aさん「そのまま走り続けたら、チェーンが傷んでチェーン切れの原因になるし、道路も傷つてしまいしね」

(広報トラックから転載)

Jump Hidaka.co.

日高運輸株式会社
住所：高崎市日高町1049
TEL：027-362-1887
Mail：hidakaunyu.co.jp@aw.wakwak.com
HP：http://hidakaunyu.com

2016年12月
No.184

12月は、貨物輸送の繁忙期です。ドライバーはお客様と意見を交わしたりする機会が増加することと思いますが、そのお客様の信頼、信用を得るために、輸送サービスのヒーローとして、次のことを再確認して下さい。

記

1 事故ゼロを目指す。
第一線ドライバーの貨物輸送の責任は重く、輸送サービス三大要素の安全・確実・迅速のうち、特に安全はプロドライバーに最重要要のものです。耳にたこをもしそうなが、安全運転の徹底こそプロドライバーの最大条件かつ最大使命です。初心を忘れず、慣れに甘えたり、経験を過信したりする気持ちを捨てて、貨物輸送に取り組んでほしいのです。あなたは

第一線でのお客様と直接接觸するドライバーの人の力によるところが一番大きいといわれています。また、ドライバーの仕事は多くの人達がいつも注目しているということがあります。運転前におけることがサービスです。運転後は、お客様へのサービスの一環であり、このことがお客様の拡大、貨物の増加、会社の発展や自分の向上につながるものと受け止めることができます。大切なことは、自分の向上に伴うべきか、を考えながら輸送業界を行なうことが求められるようにする必要があります。また、荷物を運ぶために、それに対応するサービスとは何が、それに何をどうすべきか、を考えながら輸送業界を行なうことが求められます。そのため、ドライバー自身もプロとしての自覚に立ち、輸送サービスとは何か、それに何をどうすべきか、を考えながら輸送業界を行なうことが求められます。そのため、ドライバー自身もプロとしての自覚に立ち、輸送

一口メモ

10月末現在の県内の交通事故発生状況を県警の交通事故統計でみると、発生件数48,017件、死者数50人、負傷者数14,278人、となっています。県警では、交通事故の減少を目指し、・出会い頭の事故防止・正しい合図の励行・追突事故の防止の三点を重点に、交通安全対策を進めています。トラック輸送の安全・安心を保持するために、交通ルールを守り、交通マナーに徹したセーフドライバー(SD)を目指して下さい。

(注、交通事故発生件数中、人身事故11,158件、物損事故36,859件)

◎ トラック輸送に関する年末始の安全運動等は、次のとおりです。この運動は、利用者の輸送ニーズ等に応えることを狙いとしています。

- ・第56回正しい運転、明るい輸送運動
(11月16日～1月10日)
- ・年末年始の輸送等安全総点検
(12月10日～1月10日)
- ・冬の交通安全運動
(12月1日～12月10日)
- ・年末年始労働災害防止強調運動
(12月1日～1月31日)

あなたこそ輸送サービスのヒロイ

『スノーシーズン間近』 冬期における安全運行特集

降雪時・積雪時における事故防止のポイント

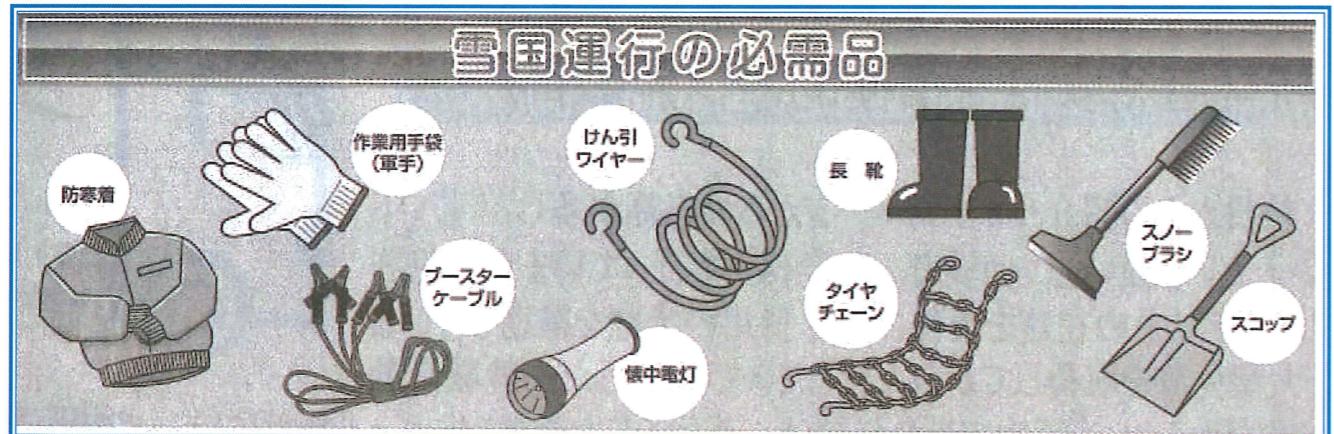
大雪による交通事故やスリップ、立ち往生などが発生した場合、周辺道路の大渋滞を招き、迂回路のない地域では大混乱を来します。降雪地域を運行するトラックドライバーの皆さんには、この時期にふさわしい雪道対策が求められます。

そこでここでは、これからやってくる冬に向けて、降雪時・積雪時における事故防止のポイントについて紹介します。

①出発前の準備

- 降雪地域を運行するときは、交通規制や事故などにより渋滞が予測されますから、早めの給油を心がけましょう。
- 出発前には、運行地域の気象や道路の情報を収集し、降雪や積雪が予想されるときは、車両点検時にタイヤチェーンや携行品などもしっかりと確認しておきましょう（図1）。

図1 降雪地域走行時の必需品



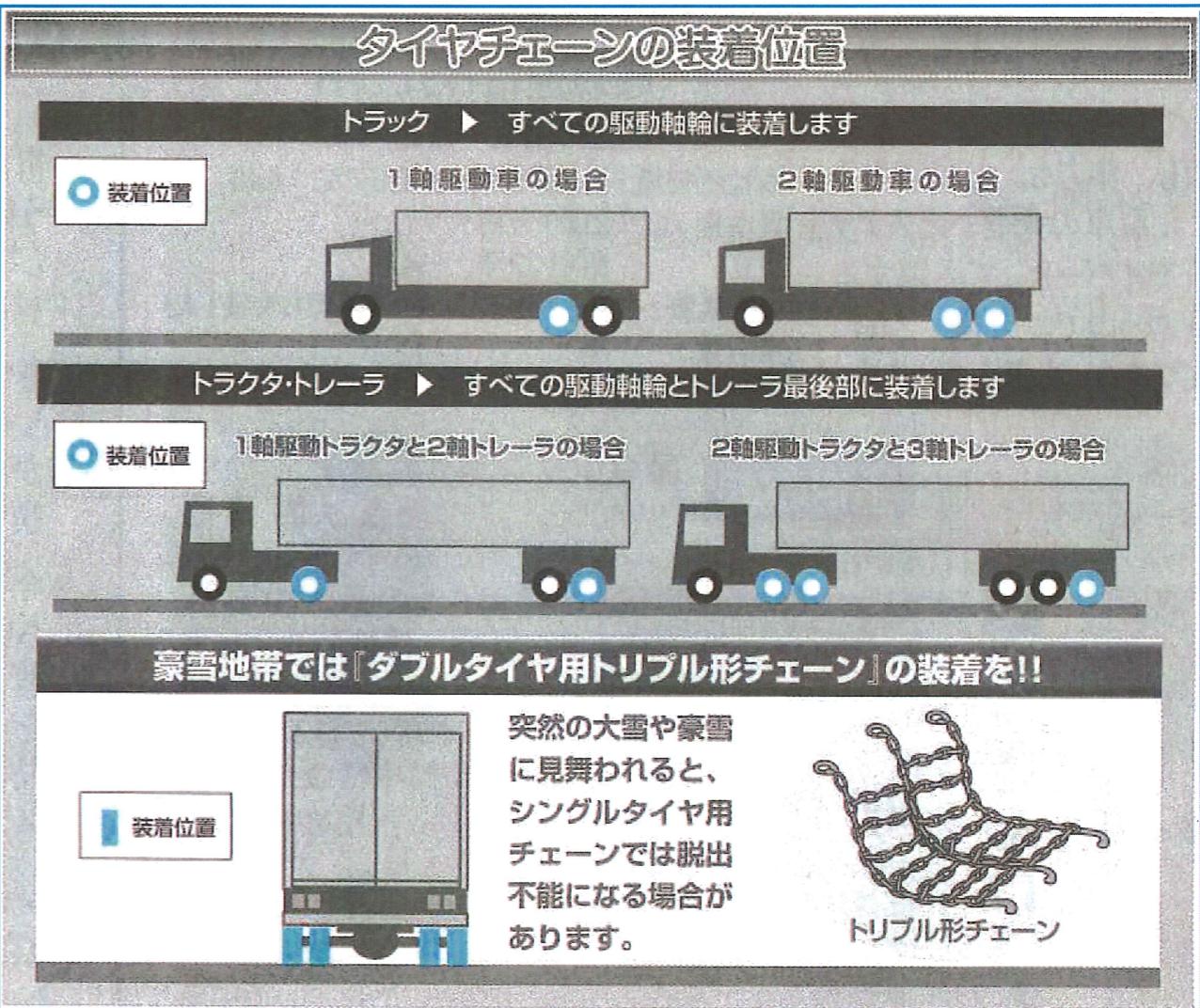
②走行時の注意

- スタッドレスタイヤなどの冬用タイヤを装着していても、過信は禁物です。雪道は滑る道ですから、速度を落とすとともに車間距離も十分にとりましょう。
- 交差点に接近するときは信号をよく確認し、赤信号や黄信号の場合は早めに減速して、交差点手前で余裕をもって停止できるようにしましょう。
- 地吹雪で前方が見えないときは決して無理をせず、すぐに安全な場所に避難して様子をみましょう。
- 雪がない場合でも路面が凍結していることがあります。とくに早朝の時間帯や、橋の上やトンネルの出入口など凍結しやすい場所では減速しましょう。
- 雪道のカーブや下り坂はスリップしやすいので、速度に注意して慎重な運転操作を心がけましょう。
- 雪道では歩行者や自転車もスリップして転倒することがよくあります。側方を通過するときは、速度を落とし側方間隔を十分にとりましょう。
- チーン装着の指示が出された場合などタイヤチェーン装着が必要になったときは、早めに装着しましょう。

③タイヤチェーンの準備と装着

降雪に見舞われたときや積雪した路面では、安全な場所で早めにタイヤチェーンを装着する必要があります。（図2）。

図2 タイヤチェーンの装着位置



タイヤチェーンを装着するときは、チーンの緩みやゴムバンドのフックへの掛け忘れなど（チーンの脱落、チーンの摩耗・損傷の原因になる）に注意しましょう。

なお、確実なチーンの装着を行うために、事前に装着練習をしておきましょう。

④けん引ロープの使い方

雪道でうっかり路肩に寄り過ぎてスタックしてしまった場合、周りに他のトラックがいるようであれば、けん引ロープ（ワイヤー）で引っ張ってもらうことで脱出することができます。

大型トラックには、車両の前後に「けん引フック」を備えています。「フロント・けん引フック」は、カバーで覆われ、通常の状態では見えない場合がありますのでカバーを取り外して使用しましょう。

（全日本トラック協会「事業用トラックドライバー研修テキスト」）

- 編集後記 -

既に11月末に降雪がありましたが、弊社は従来通り飯塚専務がスタッドレスタイヤの交換スケジュールを組んでいました。随時行いますので交換が済んだ方はきちんと飯塚専務にお礼を言って下さいネ！

